

## 《教育目標》 自律・友愛・創造

### 「自らを律し、なかまを大切に、創造性豊かな人」

自らを鍛え、責任ある行動をとり、互いの立場を認め合い、ともに支え合い、高まりあう「なかまづくり」ができ、自らの「夢の実現」に向けて、何事にもチャレンジする創造性豊かな生徒の育成を目指す。

本校のHP…<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=201407>

★「生きる力」を伸ばし、「自信と誇りにみちた生徒」を育成していく中で、生徒一人ひとりが持てる力を発揮し、各自の自己評価を高めるために創意工夫ある教育活動を実践する。(輝く松原づくり)



日	曜	行 事 等
1	火	検尿① 3年進路相談会(～10日)
2	水	検尿② 午前中授業のみ 部活なし 支部研究授業
3	木	文化の日
4	金	1.2年6限学級役員選挙
5	土	
6	日	
7	月	2年午後チャレンジ体験事前訪問
8	火	2年チャレンジ体験(～11日)
9	水	5組小中交流会
10	木	給食×切 3年6限講演会「献血について」
11	金	1年ファイナンスパーク学習 3年6限学級役員選挙
12	土	
13	日	
14	月	公開授業週間(～18日)
15	火	育成学級合同運動会 4限公開道徳授業
16	水	再検尿
17	木	5限後期学級役員認証式 評議専門委員会 職員会議
18	金	6限3年卒アル・進路写真撮影
19	土	
20	日	
21	月	テスト週間前部活動停止(～29日) 放課後学習会(～25日)
22	火	
23	水	勤労感謝の日
24	木	
25	金	
26	土	土曜学習会
27	日	
28	月	第4回定期テスト(～30日)
29	火	
30	水	職員会議



平成28年10月31日発行

文責 宮田 功

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査より 松原中学校の状況

全国学力・学習状況調査について、本年度の状況を明らかにするため、3年生を対象に全員調査が再開された平成19年度の調査結果等と比較していきます。当時、本校3年生に在籍した生徒は、現在は23か24歳となる人です。

本年度の3年生は、国語Aと国語Bともに全国平均並であり、数学Aは全国平均より高く、数学Bは全国平均より少し高い状況となっています。平成19年度は、国語Aは全国平均より少し高い程度ですが、国語B・数学A・数学Bは全国平均より高い状況となっていました。ちなみに、平成20年度は、国語B・数学Bが全国平均並で、国語A・数学Aが全国平均より少し高い状況となっていました。昨年度は、平成20年度とほぼ同じ傾向となっていました。

あまり意味のないことですが、4つの平均点を合計すると平成19年度は全国平均より高い状況で、平成20年と平成27年は全国平均並であり、本年度は全国平均より少し高い状況だったといえます。

質問紙調査からみて、本年度は数学の学習に対する関心等は高く全国平均を上回っていますが、国語の学習に対する関心等において、全国平均より低い点が課題だと思えます。平成19年と本年度を比較すると裏の表Iのようになります。さらに、質問紙調査を見ていきますと、学習習慣に関して、全国平均と比較すると問題点が明らかとなりました。「家で、学校の授業の復習をしていますか」という質問に対して、肯定的な回答率が、本年度の本校では31.9%に対して、全国平均は51%となっています。平成

《裏に続きます》

12月の予定 8日…小6対象オープンスクール 8.9日…1年生「確認学習プログラム」

16～21日…三者懇談会(1年は15日～)

22日…トークイン松原(Ⅱ期修了)

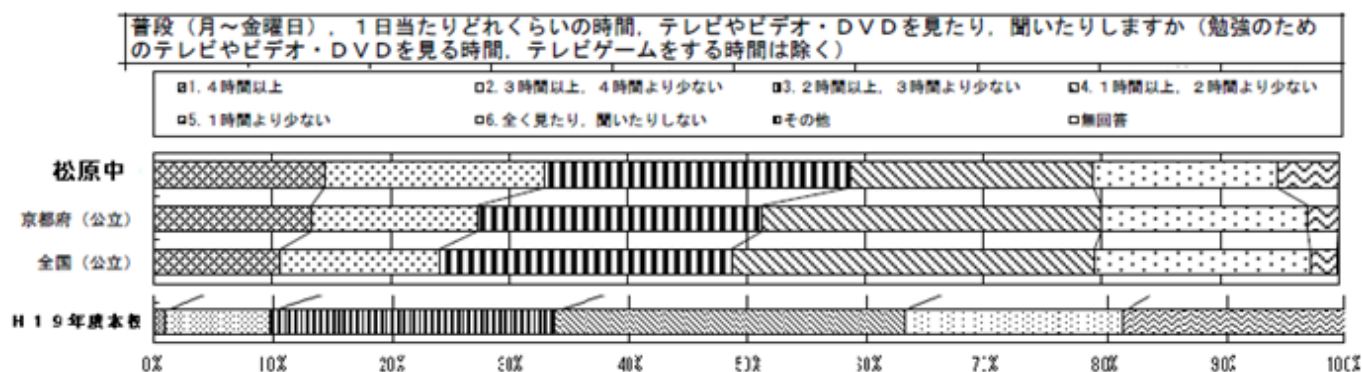
26～1月5日…冬季休業

表Ⅰ 質 問 内 容	教科	「当てはまる」の回答率	
		19年度	28年度
この教科を勉強することは好きですか。	国語	25.0%	20.6%
	数学	25.0%	42.3%
この教科の勉強は大切です。	国語	60.9%	38.1%
	数学	42.4%	46.4%
この授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役立ちますか。	国語	64.1%	32.0%
	数学	28.3%	30.9%

19年度の本校生徒を見ると42.4%でした。

一方、自尊感情に関する回答結果は、全国平均より少し低くなっていました。そのひとつとして、「将来の夢や目標を持っていますか。」について、肯定的な回答をした本年度の本校生徒の率は、64.9%に対して、全国平均は71.1%となっています。さらに、本校の平成19年度は、同じ設問に対して、75.0%となっていました。

次に、学習習慣の課題と深く関係するグラフを載せます。



## 平成28年度 全国学力・学習状況調査について、本校の国語科と数学科からの分析結果

《国語科の分析》…国語A・Bともに全国平均並で、ほとんどの領域で、平均正答率は全国および京都府を上回っているが、B問題の「根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く」ような「書くこと」に関しては、平均より正答率が下がる。

また、問題形式においても、選択式では平均値を上回っているが、A問題の中の短答式の問題や、B問題の記述式の問題の正答率が全国よりやや低いことから、「書くこと」に課題があることがわかる。

特にA問題の「スピーチ・パンフレットの作成」、「文章の推敲」やB問題の「ちらしから情報を読み取る」のような実用的な文章から、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、文章の構成や展開、表現の仕方について考える設問の正答率が低いので「読む」「書く」力をつける言語活動を重視したい。一方で、「電話をする」「話し合いをする」という言語活動の設問の正答率は高く、無解答者もない、良い状況である。

全体的に見ても、全国・京都府平均と比べ、無解答率が低く、A問題に関しては、7割の問題で無解答者が0%であることから、課題に取り組む意識は高いといえる。今後、授業において、論説文や説明文を読み、文章の構成や展開を考えると、さらにその内容を要約できる力を付ける必要がある。そのためにも学習に適した教材の選択、発掘を行う。さらにさまざまなパターンに応じた課題作文に取り組め正しい表現の仕方を身に付けさせる。このように「書く」課題に積極的に取り組む機会の設定を通して、自分の考えを書くなどの力を養っていききたい。

《数学科の分析》…数学A[主として知識に関して]はほとんどの問題で京都府、全国平均（以下：平均）を超えている。しかし、図形の問題に関してはやや下回った。数学の授業では授業の初めに小プリントを行っている。これは主に計算問題の復習が中心となっている。今回の学力調査からでは、こういった部分がポイントをあげることに非常に役立っていると考えている。なぜなら、全国学力調査以外のテストなどでも計算の基礎・基本の分野に関して高い得点力を発揮しているからだ。ところが小プリントの問題のなかに図形問題は少ないため今回平均を下回ったのではないかと考えている。今後、小プリントの計算と図形の出題をバランスよくしていけるように考えていきたい。次に、数学B[主として活用に関して]に関して、図形の問題は平均を超えているのに対して、関数の問題は平均を下回った。数学A[主として知識に関して]の問題では図形の問題は平均を超えなかったのに、数学B[主として活用]では図形の問題が平均を上回ると言う面白い状況が起こった。これは図形の証明問題は定着しているが、図形の移動や作図が今一つ理解できていなかったと考えている。関数に関しては多くの問題で京都府、全国平均を下回った。また、関数の問題の未記入者が多かったことも印象的だった。多くの生徒が関数とはどういうものかを理解できていないというふうにならなければならない状況と思われるので、今後の課題として考えいく。